

児童館を中心とした子どもの権利の拠点づくり検討会の検討状況について

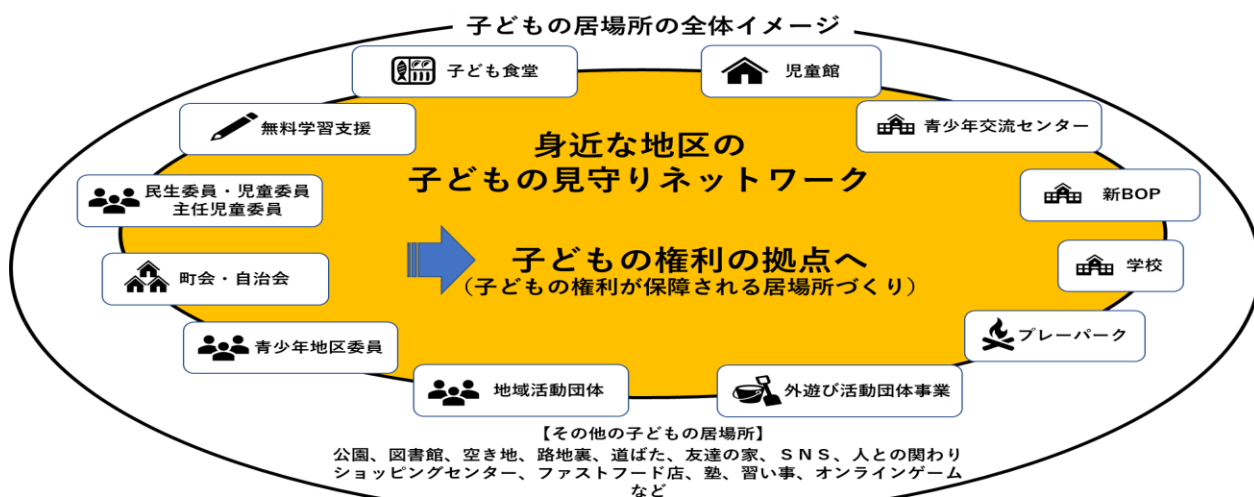
区における放課後の子どもの居場所づくりについては、国の「こどもの居場所づくりに関する指針」を勘案し、今後策定予定の（仮称）子ども・若者総合計画（第3期）に必要な内容を盛り込んでいくこととしている。

これを踏まえ、身近な地区の子どもの見守りネットワークにおいて、「子どもの権利が保障される居場所」である「子どもの権利の拠点」づくりをどう進めていくか、さらに、各地区に公の子どもの居場所として整備を進める児童館がどういった役割を果たしていくべきかなどを議論する「児童館を中心とした子どもの権利の拠点づくり検討会」を下記のとおり立ち上げたので、検討状況について報告する。

1 検討会委員

氏名	所属
安部 芳絵（会長）	工学院大学 教授
加藤 悦雄（副会長）	大妻女子大学 教授
高石 啓人	日本大学 助教
清水 雅人	世田谷区立山野児童館 館長（新BOPを含む。）
神林 俊一	世田谷区外遊び推進員
尾崎 一美	社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会 地域社協課調整係長（子ども食堂運営支援団体）
三瓶 七重	NPO法人砧・多摩川あそび村（宿題クラブ運営）
下村 一	世田谷区立希望丘青少年交流センター センター長
増田 ひろみ	世田谷区民生委員児童委員協議会 主任児童委員
奥村 明日	世田谷区子ども・子育て会議 公募区民委員

2 検討会の議論イメージ



3 検討会のこれまでの実施状況

(1) 第1回（課題共有）

国や区におけるこれまでの検討状況の報告のほか、区内の子どもの居場所における現状の課題や児童館をはじめとした居場所同士の連携状況等について各居場所からの報告に基づき共有した。

意見交換では、居場所同士の連携強化やスタッフのスキルアップに向け、児童館の積極的なアプローチが期待されることや、子ども自身が目的に応じて居場所の使い分けができるように有機的に居場所同士がつながることの重要性などの意見が挙げられた。

(2) 第2回（課題整理）

子どもを対象としたインターネット調査とインタビュー調査の結果について、小学生、中学生・高校生世代のいずれも塾や習い事などで忙しい子どもが多く、自分の家のようなゆっくりできる環境が居場所のニーズとして高いことや、居場所における運営のあり方やルールについて、子どもの声をもっと聞いたほしい、また、聞くだけではなく動いてくれる大人の存在が必要とされていることなどを共有した。

「子どもの権利の実感」をテーマにした意見交換では、子ども自身が声を発したことで課題の解決や提案の実現につながった事例などを共有し、子どもの声を聞く機会を一層充実していくことや子どもたちの参加・参画に際する食の重要性、アクセスしやすい環境づくりなどが話し合われたほか、地域全体の子どもの居場所の質の向上に向けた共通の理念や指針の必要性について意見が挙げられた。

4 検討会のスケジュール

日 程	内 容
令和5年10月27日	第1回（課題共有）
12月8日	第2回（課題整理）
令和6年1月12日	第3回（報告書内容の検討）
2月16日	第4回（報告書内容の検討）
3月8日	第5回（報告書とりまとめ）



（仮称）世田谷区子ども・若者総合計画（第3期）への反映